


モデル事業名	三国湊 緑のリレープロジェクト
活動団体名	特定非営利活動法人三国湊魅力づくりPJ
ホームページ	http://www.mikuni-minato.jp/midorelay/
所属/ 担当者名	事務局 竹内英樹
連絡先	09083244918 takeuchi@mikuni-minato.jp
活動地域	福井県坂井市三国町（ふくいけんさいかいしみにくちょう）

● 活動地域の概要

- ・ 三国湊地区（福井県坂井市三国町）は、九頭竜川の河口に位置し、石川県との県境にある。
- ・ 人口約2万3千人、世帯数約7500、高齢化率23.1%。
- ・ 三国町・丸岡町・坂井町・春江町の四町合併により平成18年坂井市となる。
- ・ 大きく分けて旧市街地（北前船で栄えた湊町）、海岸沿（東尋坊を有する漁村落）、農業の盛んな丘陵地と3つのゾーンに分けられる。京福バスおよびコミュニティバスが通っているが、住民の移動は車がほとんどである。
- ・ 農業・漁業・観光業があり、観光客の入り込み数は東尋坊で年間120万人、旧市街地で年間約9万人である。



● 活動地域の課題

- ・ 第一次産業の担い手が少なくなっている（平成17年度の第一次産業就業者は平成2年度比で約40%減）
- ・ 観光業のあり方が変わってきており着地型への観光が求められているが、まだ受け入れ体制が整っていない。
- ・ 土地所有者の高齢化、専業農家の減少により耕作放棄地が増え里山の荒廃も進み、ゴミの不法投棄につながる。
- ・ 三国にある森林430haのうち松枯れの規模は約80haと言われており、 全てを伐倒・搬出・処理するためには約5億5千万円という莫大なコストがかかる。
- ・ コミュニティ参加の負担から新興住宅地への人口流出が進んでいる。

枯れ松のある里山。
道路脇は倒木の危険を伴う

● 活動の内容

平成20年度

1) 調査研究・先進地事例視察

民間主導で行っている様々なまちづくり活動団体等8ヶ所を訪れ、ヒアリングやフィールド視察を行い、ボランティアが長期滞在できるしくみ、持続的な活動を行える体制にむけての調査研究及び事例視察を行った。

2) しゅくみづくり・構築

本格的なボランティア受け入れを含んだ実践活動・活動資金調達にむけてのしくみ・体制づくりの実地を行った。

3) 受け入れ準備・整備

地元住民との合意形成などを行い、本格的なボランティア等の受け入れにむけての準備・整備の実施を行った。
中長期ボランティア受け入れ実験（2泊3日ワークキャンプ）を4回実施。

4) シンポジウムの開催

三国湊の様々な団体等や行政・九頭竜流域の他団体との緩やかなネットワークを組み、それぞれの活動報告も兼ねたシンポジウムを開催実施した。

平成21年度

1) みどりレーワークキャンプ（1週間）の開催

里山体験を主に、安全な機械の使い方の講習会・実習、里海体験、農業体験にプラスして、街中観光や地元住民との交流活動をし、地元住民に喜んでもらうボランティア活動と三国湊の自然や文化体験をしてもらう。

3) 新たな合意形成に向けた森の勉強会の開催

地域住民との十分な合意形成が課題であったため、月1度の勉強会を通じて地域住民同士の様々な分野における話し合いの場作りを行い、合意形成をはかる。勉強会のテーマは里山、森、文化などを企画している。

3) 九頭竜川ネットワーク「ミクマリ」の形成（準備中）

九頭竜川流域の環境まちづくり団体とのネットワーク活動として、それぞれの活動レポートを合体させたフリーペーパーを作り、九頭竜川流域で発行し、取り組みを広く知ってもらう中でネットワーク化をはかる。

4) 三国湊における企業研修プログラムの実施（準備中）

まずは企業1社との提携を図り、企業研修プログラムの作成・コーディネート・実践を行いながら、その収益で活動費を捻出していく。

5) シンポジウム「第2回ふくいミクマリ会議」の実施（準備中）

1年間の活動の総括として、また新たな目標や課題に向けての解決策の提言として、九頭竜川流域関連団体・行政・住民が参加できるシンポジウムを開催する。

● 活動の成果

平成 20 年度

- ・ 様々な問題が浮かび上がり、今後取り組むべき課題と目標が明らかになった。
- ・ 地元住民に少しずつこの活動が普及でき、県外の協力者も得ることができたこと。
- ・ ボランティア受け入れ実験を通じて、実際に里山保全活動ができたこと。また地元住民から応援・協力を得ることができたこと。



里山活動

平成 21 年度（現在の活動状況を記入）

- ・ 活動を通して、今まで里山活動等に興味を持たなかった若い世代の協力を得ることができた。里山だけでなく、三国湊の歴史や街中散策を通して三国の魅力を感じてもらえ、今後リピーターに繋がる基礎をつくることができた。
- ・ 活動参加をきっかけに愛知県で里山活動をする準備や森林のあり方を考える NPO 立ち上げの準備に繋がっている。
- ・ 海岸線の松枯れが進んでいる石川県能美市ライオンズクラブから視察があり、情報交換などを行った。
- ・ 活動でする間伐・伐倒木が活用できないか県内の企業 1 社と会合を持っている。企業側からは、より密着した地域貢献に取り組みたいとの思いがあり会合を持ち始めたが、両者の思いと経済性・現実性の落としどころについてはまだまだ協議が必要であり、具体的な取り組みにまでは至っていない。みどりレーのみならず、地域住民による市民活動や、農業を営む上で出てくる廃材を活用できるようなしくみにしていくにはまだ時間がかかると思われる。
- ・ NOSAI 福井の研修として活動に参加したいとの依頼があり企業の研修プログラムとしての可能性が広がった。
- ・ 毎月の森の勉強会で三国湊の歴史や文化を知ることによって住んでいる地域を見直し、三国の魅力を発見する機会となっている。町外からの参加者は関連した史跡を訪れたい衝動に駆られ、リピーターとなるきっかけとなっている。勉強会の前にお知らせや活動の説明を行うことで活動内容を知ってもらえる機会が増えた。
- ・ 2 月の終わりにミクマリ会議を開催予定。手入れが遅れたり、放置され問題になっている人工林において鋸谷式間伐法を確立し林業の新しい可能性を見出し全国的に注目を浴びている、福井県在住の鋸谷 茂さんの基調講演が決まった。現在の時代・これからの未来に合った、里山・人工林・天然林・自然林とのかかわり方を模索する。



一週間のワークキャンプ



森の勉強会

● 今後の課題及び展望

課題（活動を通して発見された課題等を記入）

- ・ 山主をいかに巻き込んで、意思疎通を図り活動を広げていくか。
- ・ 活動全体の知識共有・レベルアップ・意識向上をいかに行うか。
- ・ 参加者・リピーターをいかに増やすか。
- ・ 活動資金をどうするか。
- ・ 森の活動の成果が見えるのが数年から数十年なので評価が難しい。
- ・ 勉強会に参加してくれる地元住民が固まってきている。地元住民との合意形成が難しい。
- ・ 現代の里山との関係、目的意識をいかに持つか、人工林・天然林・里山のバランスを考える必要がある。

展望（今後の取り組みや検討について記入）

- ・ 山主と話し合いを行い、森の目標を明確にした上で活動を行う。必要な知識は定期的に勉強会などを行って合意形成をはかっていく。
- ・ キノコの森づくりや炭や薪、塩作りを行っていくことで里山保全活動と活動資金調達活動をリンクさせていく。
- ・ 継続して技術や知識の習得をすることで全体の自然や森に対する知識がレベルアップし、活動内容の幅が広がる。
- ・ 県、企業、学生、地元を活動に巻き込んでいくためにはより魅力的なプログラムを組む必要がある。また、強引にならない（結果、単発で終わらせない）ための合意形成や周知方法を、丁寧に取り組む必要がある。